

令和7（2025）年度ナラ枯れ被害状況について

令和8（2025）年6月11日 環境森林部森林整備課

- 令和7（2025）年度は、県内23市町において新たに被害木10,266本が確認された。
- 昨年度から被害数量は減少しているが、県内全域に被害が及んでおり引き続き対策基本方針に基づく被害状況に応じた防除対策を市町等と連携して実施していく。

1 新規被害状況

(単位：本)

	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	鹿沼市	日光市	小山市	真岡市	大田原市	矢板市	那須塩原市	さくら市	那須烏山市	下野市	上三川町	益子町	茂木町	芳賀町	壬生町	塩谷町	高根沢町	那須町	那珂川町	計
被害本数	149	2,450	3,150	2,837	36	239	113	11	4	106	12	29	57	21	7	61	15	4	248	640	1	75	1	10,266

※着色 = R7年度新規被害市町

2 今年度の取組

- ・ 新たに被害が確認された6市町は、被害拡大防止のため重点的に防除対策を実施
- ・ 対策基本方針に基づき、飛び地・先端地及び二次災害懸念箇所に対する早期の防除対策を実施
- ・ 県HPやSNS、県内全市町HP等における注意喚起を行い、県民の目による監視を強化

<対策基本方針に基づいた取組>

対策	内容
駆除等の実施	・被害状況に応じた選択的防除
監視の実施	・防災ヘリを活用した空中探査 ・自動車利用による地上探査
情報共有体制	・県内関係機関と情報共有・連携を図るため 栃木県ナラ枯れ被害防除対策会議を開催
その他	・県・市町HPやSNS等による県民への注意喚起 ・防除対策マニュアルによる防除方法の周知

ナラ枯れの被害状況



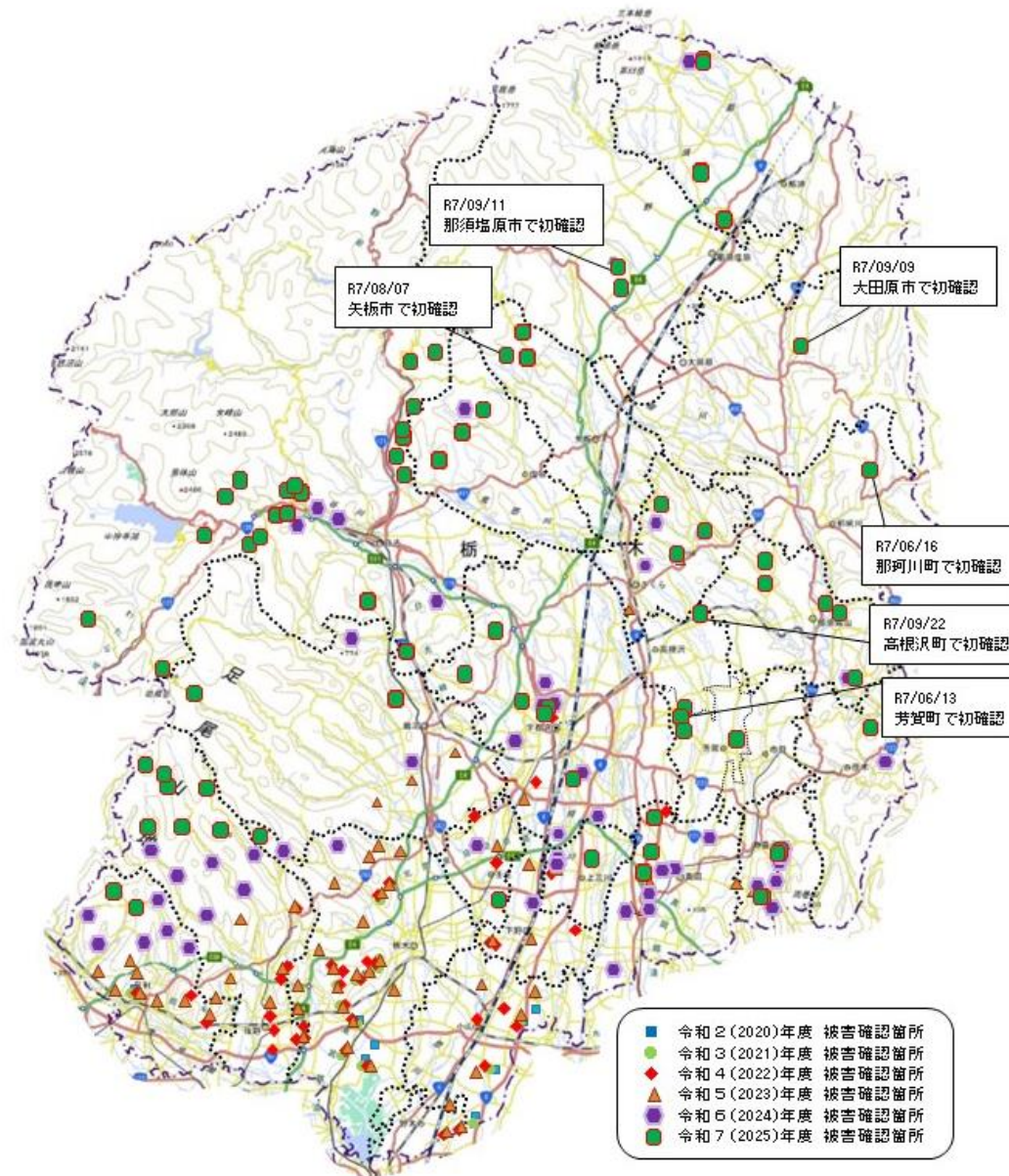
防除対策状況（粘着シート被覆）



表1 市町別ナラ枯れ被害状況

時 点	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	鹿沼市	日光市	小山市	真岡市	大田原市	矢板市	那須 塩原市	さくら市	那須 烏山市	下野市	上三川町	益子町	茂木町	芳賀町	壬生町	野木町	塩谷町	高根沢町	那須町	那珂川町	計
R2 (2020) 年度末		41	3				12																		56
R3 (2021) 年度末		95	261				15																		371
R4 (2022) 年度末	14	1,500	3,611	1,050			125	43						48	2				5	68					6,466
R5 (2023) 年度末	105	1,880	4,910	1,131	37		286	181				79		175	5	167			6	75					9,037
R6 (2024) 年度末	243	3,440	5,710	3,650	34	28	290	209				35	15	160	9	173	100		27	20	113		2		14,258
R7 (2025) 年度末	149	2,450	3,150	2,837	36	239	113	11	4	106	12	29	57	21	7	61	15	4	248		640	1	75	1	10,266

図1 栃木県におけるナラ枯れ被害確認場所



<参考資料:ナラ枯れとは?>

1. ナラ枯れとは?

- ・ナラ枯れ(正式名称:ブナ科樹木萎凋(いちょう)病)は、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、ナラ類等の樹木が集団的に枯れる樹木の伝染病
- ・全国では平成12年頃から徐々に被害が拡大。令和6年度は44都府県で被害の発生を確認
- ・カシノナガキクイムシは森林病害虫等防除法で定める駆除対象

2. 被害の特徴

- ・7月下旬から8月中旬にかけて葉が変色し急速に枯れる。



写真:令和4(2022)年8月撮影

3. カシノナガキクイムシの特徴

- ・ナラ類(特にコナラ・ミズナラ)等の大径木を好む在来種
- ・成虫の形態は体長が4.5mm程度、色は光沢のある茶~暗褐色、細長い円筒形
- ・メスの背中に菌の胞子を貯蔵するくぼみがあり、ナラ菌などを運搬
- ・オスが集合フェロモンを放出することで、集団加害(マスアタック)を引き起こす。

4. ナラ枯れの年間生育サイクル

